

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：植物防疫費

事業名 病虫害総合管理技術推進対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 ぎふ清流GAP推進係 電話番号：058-272-1111(内2868)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,590 千円 (前年度予算額：4,147 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,147	895	0	0	0	0	2,557	0	695
要求額	1,590	895	0	0	0	0	0	0	695
決定額	1,590	895	0	0	0	0	0	0	695

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・化学合成農薬の適正使用と代替技術体系を組み合わせた総合的病虫害管理技術（IPM）の開発、体系化を図り、より安全・安心な農産物生産技術の確立が求められている。
- ・植物防疫法において検疫有害動植物に指定されているウメ輪紋ウイルス（PPV）の感染樹が県内で確認されており、感染樹及び周辺樹を調査する必要がある。

(2) 事業内容

- ①病虫害総合管理技術推進対策事業費（1,390千円）
県内の主要品目において、病原菌の薬剤感受性検定、発病軽減技術の開発、防除効果等の検討等により、化学合成農薬の適正使用及び削減した効果的な防除技術を確立する。
- ②ウメ輪紋ウイルス緊急防除対策（200千円）
ウメ輪紋ウイルス感染樹及び周辺樹を調査し、当病のまん延を防止する。

(3) 県負担・補助率の考え方

<消費・安全対策交付金>

- ・病害虫総合管理技術推進対策事業 国1/2、県1/2
- ・ウメ輪紋ウイルス緊急防除対策 国10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	287	試験研究補助事務人件費
人件費	11	試験研究尾所事務員通勤費
旅費	139	現地調査、検討会
需用費	1,109	調査用資材、事務消耗品、公用車燃料、調査報告書印刷等
役務費	44	通信運搬費
合計	1,590	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

植物防疫法第29条（都道府県が行う防疫）

(2) 国・他県の状況

侵入病害虫（ウメ輪紋ウイルス等）の調査は、植物防疫法に基づき、各都道府県で実施。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・化学合成農薬の適正使用により、薬剤抵抗性病害虫の発生を未然に抑えるとともに、抵抗性の回避や、難防除病害虫に対して代替技術(生物的、物理的、耕種的防除)を導入して被害を防止し、持続的な農業の実現に資する。
- ・県内外で警戒する病害虫の侵入警戒調査を実施し、監視あるいは防除により県内のまん延を防ぐ。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

植物防疫法、農薬取締法等に基づき、植物に有害な動植物を駆除し、また、そのまん延を防止して農業生産の安全及び助長を図ることを目的としているため。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的防除管理技術は、化学合成農薬の適正使用と代替技術を組み合わせた効果的、効果的な防除対策の農業現場への波及に繋がった。 ・ウメ輪紋ウイルスは、国の方針により調査のみ実施し、発生範囲を確認した。
令和 3 年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>環境に配慮した農業の普及推進のためには、農薬の効率的な利用を可能とする総合的病害虫・雑草管理技術の開発が必要である。 ウメ輪紋ウイルスについては、感染樹の発生範囲を調査する必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>ウメ輪紋ウイルスについては、早期発見、緊急防除により最小限の被害にとどまっている。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>ウメ輪紋ウイルス調査は、他の病害虫発生予察調査などと併せて、効率的に実施するよう努めている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内主要品目の薬剤抵抗性病害虫の発生防止や、難防除病害虫に対する効果的、環境への負荷の少ない防除方法の検討が引き続き必要である。 全国的に新たな病害虫等に対する侵入警戒調査が継続されている。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県産農産物の安全性確保と信頼性向上のため、継続的な調査が必要である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	